

【三月の言葉（令和五年）】

救いはもう届いています。

気づいていないだけです。

今、私たちは阿弥陀仏の願いの中にいます。今、お慈悲に抱かれていのです。しかし、それに気づかないでいます。気づかない私たちのために、仏様はいろいろな方法で気づかせようとはたらいてくださっています。気づくことを信心といひます。信心をいただければ大きな喜びです。生きる力になります。仏法を聞くとは、どうしたら救われるかではなく、"もう救いが届いている"ことを聞かせていただくことをいひます。

親鸞聖人の和讃に「生死の苦海ほとりなし 久しく沈める我らをば 弥陀弘誓の船のみぞ 乗せて必ず渡しける」とあります。人生の苦海に深く沈み、自らの煩惱によつてもがき苦しんでいる私たちに、阿弥陀仏は船(願い)を用意してくださっています。私たちは、その船(願い)に乗せていただくだけです。

自己に執着すると弥陀の願いに気づけません。仏法を聞き、自分の力では救われようのない煩惱だらけの己を知り、そんな私のために起こされた阿弥陀仏の願いを受けとめてください。